
計算結果不具合 診断・リカバリーツール
操作マニュアル

目次

1	本書について	3
1.1	本書の目的	3
1.2	本書の取り扱い	3
2	注意事項	4
3	ツールの構成	5
3.1	診断ツール	5
3.1.1	不具合案件情報 [incorrect_matters_(実行した日時).csv]	5
3.1.2	不具合フォーム情報 [incorrect_forms.csv]	6
3.1.3	診断ツールの制限事項	6
3.2	リカバリーツール	6
3.2.1	リカバリーツールの制限事項	6
4	インストール	7
4.1	Windows 向けインストール手順	7
4.2	Linux 向けインストール手順	7
5	使用方法	8
5.1	計算結果の誤りを診断	8
5.2	PDF ドキュメントのリカバリー	9
5.3	PDF ドキュメントのリカバリー結果の確認	9

1 本書について

1.1 本書の目的

本書では、ワークフローシステム上で計算結果が誤っている PDF ドキュメントを再生成し、正しい計算結果が表示されるように修正するツールについて解説します。

参考 URL : <https://support.createwebflow.jp/news/view/2044.html>

1.2 本書の取り扱い

本書には弊社独自のノウハウ、未公開の情報が含まれている場合があります。本書の複製、引用、送信、ならびに貴社の関係者以外の方への公開は、必ず事前に弊社までお問い合わせ願います。

2 注意事項

- 本ツールの実行前に、ワークフローシステムを V5.1.3 にアップデートしてください。V5.1.2 以前では PDF ドキュメントのリカバリーが正しく行われません。
- 本ツールは、ワークフローシステムと同じサーバーにインストールする必要があります。
- 本ツールの実行時は、必ず以下のシステムを停止してください。なお、ワークフローシステムのデータベースは、起動する必要があります(本ツール実行中に参照するため)。
 - ワークフローシステム
 - 決裁データ出力オプションや案件定期削除などワークフローシステムに関わるバッチ処理
- 本ツールを使用した一連の作業が完了するまでは、フォームの編集をお控えください。
- 決裁データ出力オプションやファイル保管機能で出力した PDF ドキュメントは、リカバリーの対象外です。

※決裁データ出力オプションに関しては、リカバリー完了後に決裁データ出力オプションの「履歴管理マスタ」から該当案件の出力履歴を削除することで、正しい計算結果になった PDF ドキュメントを改めて出力できます。手順は決裁データ出力オプションの操作マニュアル「6 操作説明－履歴管理」をご参照ください。

- 以降の手順で記載しているフォルダー構成は、すべて標準インストール時 (Windows: C:\%CREATE_HOME、Linux: /usr/local/CREATE_HOME) のものです。インストール時にワークフローシステムのインストールフォルダーを変更している場合は、フォルダー構成を読み替えてください。

3 ツールの構成

本ツールには、診断ツールとリカバリーツールの二種類が含まれています。

3.1 診断ツール

PDF ドキュメント上の計算結果を診断し、誤っている案件を抽出します。案件の状態が「決裁済み／完了／否認」の案件を対象とします。診断ツールを実行すると、以下で示す二種類のファイルが本ツールのインストールフォルダー直下に出力されます。

3.1.1 不具合案件情報 [incorrect_matters_(実行した日時).csv]

計算結果が誤っている案件の情報が、以下の CSV 形式(文字コード：UTF-8)で出力されます。

列名	内容	備考
案件 ID	計算結果が誤っている案件の ID	計算結果が誤っているオブジェクト一つにつき 1 行出力されるため、同じ案件 ID の行が複数出力されることがあります
申請件名	計算結果が誤っている案件の申請件名	-
案件状態	案件の状態	「決裁済み」、「完了」、「否認」のいずれか
更新日時	案件の更新日時	案件が [案件状態] 列の状態になった日時
履歴 ID	使用したフォームの履歴 ID	最新のフォームを使って承認された案件は、履歴 ID の代わりに「latest」と出力されます。承認当時の履歴がすでに削除されている案件は、使用した履歴 ID の前に [(該当なし)] が付きます
オブジェクト名	誤った計算結果が表示されているオブジェクト名	Form エディターでオブジェクトに対して [ページごと区別あり] を指定しているオブジェクトでは、フォーム識別子などが付与されます
正常値	正しい計算結果	-
異常値	PDF ドキュメント上に表示されている誤った計算結果	-

※同じフォルダーに [incorrect_matters.csv] というファイルも出力されますが、こちらはリカバリーツールの実行に必要なファイルなので確認は不要です。

3.1.2 不具合フォーム情報 [incorrect_forms.csv]

計算結果が誤っている案件で使用したフォームの情報が、以下の CSV 形式 (文字コード：UTF-8) で出力されます。

列名	内容	備考
フォーム ID	計算結果が誤っている案件で使用したフォームの ID	-
フォーム名	計算結果が誤っている案件で使用したフォームの名前	最新のフォーム名が表示されます

3.1.3 診断ツールの制限事項

承認した時点のフォーム履歴が存在しない案件は、もっとも古いフォーム履歴の内容に基づいて診断されます。そのため、診断の結果が実際の表示内容と異なる可能性があります。

※ 本ツールでは、ワークフローシステムに保存されているフォームの変更履歴から、案件当時のフォームを抽出して診断を行います。この変更履歴は最大 50 件です。最大数を超えると古い履歴から削除されます。

3.2 リカバリーツール

計算結果が誤っている案件の PDF ドキュメントを再生成します。再生成されるのは、「決裁済み (状態が決裁済みの案件のみ) / 完了 / 否認」になった時点の PDF ドキュメントです。

3.2.1 リカバリーツールの制限事項

- 以下の条件に該当する案件はリカバリーの対象外です
 - 承認時点のフォームの履歴が存在しない案件
 - 診断ツールを実行してからリカバリーツールを実行するまでの間に、案件状態が決裁済みから完了になった案件
 - 使用するフォームが削除された案件
 - 旧バージョン形式のフォーム (PDF フォーム、JSP フォーム) で申請・承認された案件
 - 以下の条件にすべて該当する案件
 - [別名申請]、[データを利用して申請] で申請
 - 元案件の [印影]・[日付印] を引き継ぐ設定にしている (オブジェクトのプロパティで [別のドキュメントで利用した情報を表示する] にチェックを入れた [印影]・[日付印] が存在する)
 - 元案件が削除されている
- 手動印影は、リカバリーツール実行時点の印影画像が使用されます

4 インストール

ワークフローシステムがインストールされている OS 向けの手順で、本ツールをインストールしてください。

4.1 Windows 向けインストール手順

※インストール、および診断ツール・リカバリーツールの実行は、**administrator** 権限を持つユーザーで行ってください。

1. サポートサイトから [cwf-document-recovery.zip] をダウンロードします
2. [cwf-document-recovery.zip] を解凍します
3. 解凍した [cwf-document-recovery] フォルダを、ワークフローシステムのインストールフォルダ(C:\%CREATE_HOME)直下に移動します

※解凍ツールによっては、解凍した [cwf-document-recovery] 内に同名フォルダが入れ子になる場合があります。移動の際は、以下のフォルダ構成となるようにしてください。

```
ワークフローシステムのインストールフォルダ
├── cwf-document-recovery
│   ├── check.bat
│   └── recovery.bat
(以下略)
```

4.2 Linux 向けインストール手順

※インストール、および診断ツール・リカバリーツールの実行は、ワークフローシステム(Tomcat)の実行ユーザーで行ってください。

1. サポートサイトから [cwf-document-recovery.tgz] をダウンロードします
2. 次のコマンドでワークフローシステムのインストールフォルダ (/usr/local/CREATE_HOME)に [cwf-document-recovery.tgz] を解凍します

```
tar --no-same-owner -xzf cwf-document-recovery.tgz -C /usr/local/CREATE_HOME/
```

5 使用方法

5.1 計算結果の誤りを診断

1. コマンドプロンプト（Linux の場合はターミナル。以下、同様）を起動します
2. cd コマンドを使い、[cwf-document-recovery] フォルダに移動します
3. 診断ツールを実行します（Windows: check.bat、Linux: check.sh）。診断の対象期間を限定する場合は、診断ツールに以下の引数を指定してください

引数	内容	初期値（引数指定なし）
-s <yyyy/mm/dd>	最終更新日が指定した日以降の案件を診断する (例. -s 2020/01/10)	2018/11/30 ※不具合が発生するバージョンのリリース日以降
-e <yyyy/mm/dd>	最終更新日が指定した日以前の案件を診断する (例. -e 2020/01/10)	診断ツールの実行日

4. 診断が終了すると以下のメッセージがコマンドプロンプトに表示されます

検出結果	内容
0 件	計算結果が誤っている案件は検出されませんでした
1 件以上	計算結果が誤っている案件が{案件数}件検出されました。詳細は{診断ツールのインストールフォルダ}/incorrect_matters_(実行した日時).csvを確認してください

計算結果が誤っている案件が検出された場合は、表示されたパスにあるログファイルで詳細をご確認ください。PDF ドキュメントの内容を修正する場合は、[5.2 PDF ドキュメントのリカバリー] の手順に進んでください。

※診断ツールを実行すると、以下の警告が表示されますが、診断ツールの動作に影響はありません。リカバリーツールも同様です。

```
WARNING: An illegal reflective access operation has occurred
WARNING: Illegal reflective access by org.postgresql.jdbc.TimestampUtils
(file:/C://CREATE_HOME/Tomcat/lib/postgresql-42.1.4.jar) to field
java.util.TimeZone.defaultTimeZone
WARNING: Please consider reporting this to the maintainers of
org.postgresql.jdbc.TimestampUtils
WARNING: Use --illegal-access=warn to enable warnings of further illegal reflective access
operations
WARNING: All illegal access operations will be denied in a future release
```


5.2 PDF ドキュメントのリカバリー

※リカバリーツールは診断ツールが出力したファイルの一部を使用します。
リカバリーツール実行前に必ず診断ツールを実行してください。

1. リカバリーの対象から除外したいフォームがある場合は、テキストエディターで [incorrect_forms.csv] を開き、除外するフォームの行を削除します
2. コマンドプロンプト (Linux の場合はターミナル。以下、同様) を起動します
3. cd コマンドを使い、 [cwf-document-recovery] フォルダーに移動します
4. リカバリーツール (Windows: recovery.bat、Linux: recovery.sh)を実行します
5. リカバリーが終了すると、以下のメッセージがコマンドプロンプトに表示されます

<案件数>件のPDF ファイルを再生成しました。

※リカバリーツールを実行すると、リカバリー前のPDF ドキュメントのバックアップが、 [backup_(実行した日時)] に保存されます。このフォルダー内の階層は、ワークフローシステムのドキュメントフォルダー (CREATE_DOC)以下と同じです。何らかの理由でリカバリー前に戻したい場合は、こちらのフォルダーの内容をドキュメントフォルダーに上書きコピーしてください。

5.3 PDF ドキュメントのリカバリー結果の確認

1. ワークフローシステムを起動します

※ワークフローシステムのインストール環境が Linux の場合は、リカバリーツール実行時とは異なるターミナルを使ってワークフローシステムを起動してください

2. 管理者ユーザーでワークフローシステムにログインします
3. ヘッダーメニューで [管理機能] - [運用管理] をクリックします
4. 左メニューで [案件管理] をクリックします
5. リカバリー対象となった案件を検索します
6. 「決裁済み (状態が決裁済みの案件のみ) /完了/否認」になった時点のPDF ドキュメントが正しい計算結果になっていることを確認します

以上